

城下町長島の歴史を訪ねて (全行程約5km)





1. 八幡神社

寛元3年(1245)前関白藤原道家が長島に流されている時に勧請した長島最古の神社。度々の洪水や兵乱で大破したが、その都度、長島城主や住民により、修復されて現在に至っている。元禄12年(1699)に北島の氏子より獅子頭2頭、天狗面2面などが奉納されて以来、獅子舞(市指定文化財)が行われてきた。近年、一時中断もあったが、復活している。

2. 大智院



長島城主松平定政(さだまさ)が真言宗の寺として建立し、その後歴代の城主は祈願所とした。元禄2年(1689)松尾芭蕉は「奥の細道」の旅を大垣で結んだ後、同年9月6日、芭蕉の門人曾良の叔父良成が住職をしていた長島大智院に宿泊した。この時の挨拶句が「うき我をさひしからせよ 秋の寺」。その直筆の色紙「真蹟懐紙」(市指定文化財)が残されているが、そのまま拡大され刻まれた句碑が境内に残されている。また、芭蕉来訪の100年後、藩主増山正賢(雪斎)は記念の石碑「蕉翁信宿処」の句碑(正賢の自筆)(市指定文化財)を建立した。

3. 光栄寺



長島一向一揆の際、石山本願寺から寺侍として送り込まれた飯田九蔵を開祖とする。この一揆の後、長島町内(現在地より一丁ほど東)に寺基を定めたが、宝暦年間(17世紀中ごろ)の洪水で堂宇を現在地に再興した。長島六坊の一つ。長島町には、他に長島六坊として深行(じんぎょう)寺、善明(ぜんみょう)寺、源盛(げんじょう)寺がある。なお、六坊の公称は元禄3年(1690)以後のことである。

4. 天然記念物大松



樹齢300年以上のクロマツ。長島城があった当時は、本丸の西南隅にあった。現在は長島中部小学校のシンボルになっている。樹高約15m、胸高円周2.8m。市指定文化財になっている。

5. 長島城跡



寛元3年(1245)前関白藤原道家が長島に流されている時に西外面に館を築いた。その後、文明14年(1482年)伊藤重晴が安濃郡から来てこの地方を占有し、この館跡に城砦を作った。元龜・天正年間(16世紀後半)には一向宗徒がここを攻略し、この城を中心に織田信長軍と戦ったが、敗れて落城した。その後幾多の変遷を経て、江戸時代には長島藩(2万石)となり、菅沼・松平・増山氏が城主となり、明治維新まで続いた。現在は長島中学校と長島中部小学校が城跡地に建てられている。

6. 稻荷社境内秋葉社



長島町の石取祭は、稻荷社境内の秋葉社の石取神事として行なわれ、神社の玉垣の敷石を年に一度新しくするため町屋の川から石を拾い採ってきたのが始まりである。江戸時代末期から行なわれるようになった。現在は祭車を曳いて鐘や太鼓を鳴らしながら練り歩く町練りのみが行なわれる。下町、中町、萱町に各1台ずつ山車を持ち、7月の終わりごろに開催される。



7. 又木茶屋

郷土の画家 佐藤昌胤(しょういん)画伯の生前の屋敷を長島町が譲り受け、情報交流施設とした。敷地内には画伯の愛した多種の椿や、旧長島城の庭園の石で組んだ枯山水の庭園が整備されている。施設内には、画伯のギャラリー、道路案内があり、まちの特産なども紹介・販売されている。



8. 長島水辺のやすらぎパーク

旧久我邸を改修し、休憩施設として整備したものである。久我氏は江戸時代、長島藩の重職にあり、三重県になったときには、戸長に任命され、長島・松ヶ島・駒江・出口・又木・小島の各村を治めた。家屋は明治12年(1879)に建築されたもので、後に改修されたものの、ほぼ原型を留めており、明治の生活様式を知る上で貴重な建築物である。



9. 願証寺

長島一向一揆の頃の長島願証寺は、現在、長良川の底(杉江地区)になっている。長島一向一揆の後、寛永11年(1634)旧願証寺門徒のため又木に祐泉寺(ゆうせんじ)が建てられ、桑名願証寺の通寺(かよいでら)となった。承応年中(1650頃)寺号を誓来寺(せいらいじ)と改め、正徳5年(1715)には西本願寺の末寺誓来寺兼帯願証寺となり、明治9年(1876)正式に願証寺を名乗ることになった。昭和50年(1975)、一向一揆の400年の追悼法要がここで行われ、「長島一向一揆殉教の碑」も建立された。

10. 道標

明治4年に七里や三里の渡しが廃止され、東海道は熱田から前ヶ須に至り、前ヶ須から官営渡船で長島を横断する鰻江川(うなぎえがわ)を通り、桑名川口町へ着くコースに変更された。これとは別に、前ヶ須から民営渡船で押付へ渡し、長島を陸路で横断し、十日外面(とおかども)から桑名福島へ渡る民営渡船のコースができた。この東海道を示しているのが本道標。



11. 蓮生寺

延宝年中(1675頃)に千倉村から中町に寺基を移したと伝えられているが、長島に移った時期は定かではない。この寺の山門は明治9年(1876)に長島城の大手門を払い下げられ、移築したものである。当時よりも縮小されているが、瓦は増山家の家紋がそのまま残されている。



12. 光岳寺

慶安2年(1649)当時の藩主松平良尚(よしひさ)とともに信州小諸より長島に寺基を移した浄土宗の寺で、徳川家康の母於大(おだい)の方の菩提寺でもある。門前の地藏堂に伝教大師の作と言われる沓履子安延命地藏(くつぶみこやすえんめいじぞう)(市指定文化財)が安置されている。



13. 水屋

水屋とは「洪水時の個人的な避難場所であると同時に、米、味噌、たまりや重要な什器類を日ごろ収納しておくために、屋敷内に独立して高く土盛りや石積みされた建築物」である。ほとんどが屋敷の北または西に建てられ、冬の季節風を防ぐ役割ももっている。このような水屋を建てられるのは裕福な農家で、他の多くの農家は洪水時には助命壇(命塚)に避難した。

